

第3種郵便物認可

享月 日 楽新 局

実践英語磨き 育て国際人

東海教育 ウォッチ

清林館高校

(愛知県愛西市)

清林館高校(愛知県愛西市)は長く国際理解教育に力を入れてきた。文理特進、文理選抜、進学総合の三つのコースのほか、国際コースがあり、生徒の多くが語学研修や1年間の長期留学に出かけてきた。最近では、同コースの在校生、卒業生の姉、母の3人が実用英語技能検定(英検)の1級に合格したことも話題になった。同校流の「グローバル人材」の育て方を探った。

少人数の課外授業

5月中旬の放課後、同校を訪ねると、4月に入学したばかりの国際コースの1年生が英語のレッスンを受けていた。教室の半分は空席で15人前後の少人数だ。



フィリピン出身の教員による1年生の授業。前に立つ生徒に対して、他の生徒たちが簡単な質問をして答える練習をしていた。愛知県愛西市の清林館高校

1926年、津島裁縫女学校として創立。48年の津島女子高校の改称などを経て、2001年に校名を清林館高に変更し共学に。研修旅行を行うなど、国際理解教育には力を入れてきた。国際コースのほか、三つのコースでも語学研修制度がある。

学校データ

問をつくらせてみよう」と英語で話す。質問に答える生徒が壇上に立ち、「海外へ行ったことがありますか」と言った質問が飛び出す。

ほかの教室をのぞくと、米国出身や英国出身の教員たちが海外の教科書を使った授業をしていた。この放課後の授業は、ネイティブの教員5人と、英語の資格を中心に教える日本人のセンタール長の6人で受け持つ「校内ランゲージセンターレッスン」だ。

レベル別でクラス分けがされ、1クラスは10〜20人の少人数。1年生は週に2回、放課後に計6時間のレッスンを受け、2、3年生は大学受験の期間をのぞき、週3〜5時間のレッスンを受ける。

レッスンは基本すべて英語で、校内で留学しているような雰囲気をつくる。2、3年生になると、時事英語やディスカッションなど、内容も高度になる。ランゲージセンターが大切にするの



清林館高校

⑤ フィリピン・セブ島での語学研修の様子。いずれも同校提供



は「学んだ英語を実践的に使う」ことだ。センタール長の吉田哲雄教諭は「リスニングやスピーキングを伸ばすことができるネイティブの教員の授業を多く受けてもらうようにしている。学んできたことをアウトプットして英語力を試す場、また、留学から戻った生徒はメンテナンステキな場になっている」と話す。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で、1年生向けのフィリピンやニュージーランドでの語学研修プログラムが中止に。代わりにランゲージセンターでのレッスンを受け続け、学年目標である英検2級に、71人のうち46人が合格した。

2級に合格した築山明香里さん(2年)は「ランゲージセンターでは全部英語で話していたので、英検の2次試験のスピーキングも緊張しませんでした」。語学研修には参加できなかったが、今秋からのカナダへの約1年間の留学を予定しているという。

多くが長期留学へ

国際コースでは「生きた英語を学ぶことを大切に、コロナ禍前は多くの生徒が海外に留学していた。1年生では7〜10週間の語学研修、2年生では約1年間の長期留学に出かけていた。長期留学では、オーストラリアや台湾など提携校への交換留学のほか、あつせん団体を利用して米国やカナダ、英国などに留学する。これまで年50人以上の渡航が続いてきた。

また、英語力の高さを証明するため英検を始めとする資格取得にも力を入れる。1年生で2級、3年生までに準1級と目標に定める。最近5年は2級は250人前後、準1級は80人前後の合格者を出し、1級に合格する生徒も複数人出てきた。「共通の目標をみんな目指すのでこれまでの実績が出せている」と国際教育課長の佐藤慎祐教諭は話す。

3年の光田英志さんは入学時は英検4級だった。米国留学後、1級に合格した。同コース卒業生の姉も在学中に、英語教師の母も1級に合格していた。「友達が先に合格すると刺激を受け、『追いつけ、追い越せ』というギアをつけてくれ、合格できた。環境がよかった」と振り返る。

資格試験合格を目指す一方で、佐藤教諭は「英語は生徒たちを支える土台。その上で、英語を使って何ができるか、その『何か』を見つけてほしい」と話す。長期留学や留学生の受け入れの経験を通じ、語学を生かした職業に就く卒業生も多いという。(小原智恵)

◆「東海教育ウォッチ」では、東海地方の特色ある教育を紹介します。随時掲載します。